

G空間EXPO2015

Geoアクティビティフェスタ 受賞作品

最優秀賞

だれでもガイド！	首都大学東京倉田研究室
----------	-------------

優秀賞

空き家管理調査システムふるさぼマップ	NPO法人ふるさと福井サポートセンター北山 大志郎 様
位置情報 + 時間 = 思い出 ゲーム感覚の地域文化アーカイブプラットフォーム	株式会社トリトメ西部 一英 様

奨励賞

官民連携の情報共有プラットフォームによる 職員参集システム	GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会
じじばばウォッチ	チームじじばばウォッチ代表：菊地 映輝 様
CanSat Mappingで拓く宇宙工学の未来	CanSat Mapping製作委員会代表：平澤 遼 様

来場者賞

スマートグラスを用いた現地調査・入力システム	株式会社デバイスワークス（代表：加賀屋 太郎 様）
------------------------	---------------------------

地震クイックアナライズサービス

神庭 幸男
(株)ナレッジフォーサイト

キーワード 地震、火山、一元化震源

すべての地震をすばやくわかりやすく見える化します

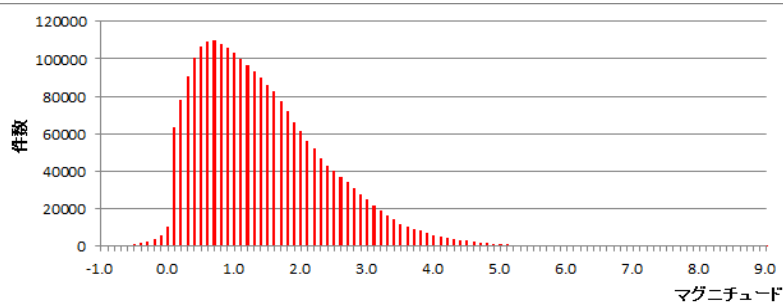
- ・地震の情報を整理・分析し、災害予防のためのツールとして提供することを考えた WEB サービス
- ・気象庁が公開している一元化震源のデータをベースに蓄積した 1983 年からの全震源データを利用して、地震の発生状況を地図上に表示し、可視化しています

■■■ 保持している地震イベント ■■■

データ数：300 万件

- ・ 1983 年から
- ・ M マイナスから

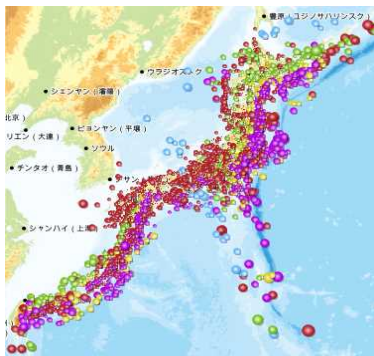
※マグニチュード 3 以下の微小地震も収集し、整理することで、新たな知見が見られる。



■■■ 可視化 ■■■

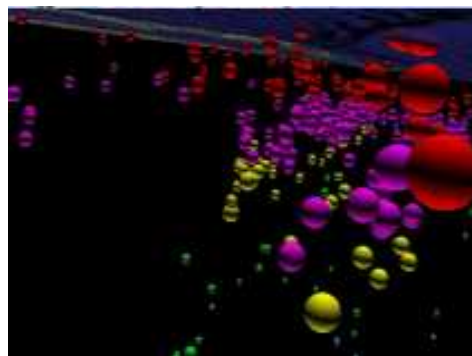
【地図】

日本で発生した震源分布を地図上に表示



【3D】

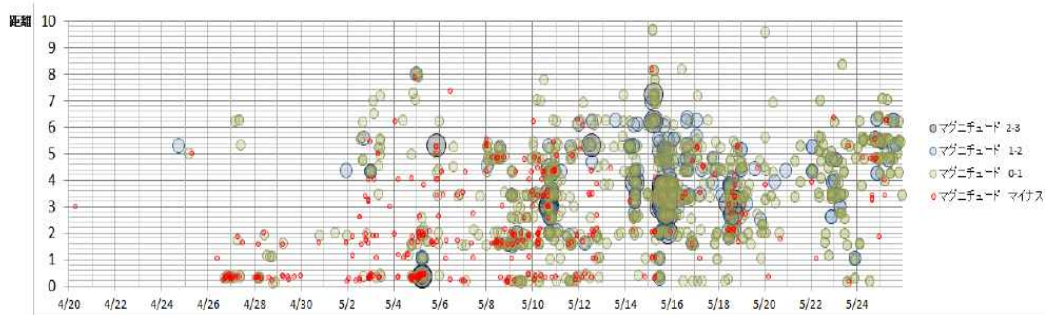
地下での地震発生状況を 3D 化



【グラフ】

時系列などの地震発生状況の可視化

中心地点からの距離を時系列でグラフ化



ネットで確認できるキャンパス 3 次元防災マップ

愛知工業大学
中村研・小池研・山本研

キーワード

防災マップ, 3 次元, 点群, キャンパス

愛知工業大学においては、地震などの発生時における避難経路が指定されており、紙に印刷された地図に記入され、入学時に学生に一斉配布されるとともに、各講義室の一角に吊り下げられている。紙媒体であるために、(1) 確認したいときに容易に手に取ることができないこと、(2) 2 次元表示であるために、避難経路の高低差が把握できないなど、防災マップとしては改善すべき点がある。

本研究では、避難経路としての安全性（危険性）を調査した結果を、キャンパスの 3 次元点群データを基にして 3 次的に視覚化し、インターネットに接続された携帯端末で確認できる 3 次元防災マップを提案する。3 次元点群データは、UAV による空撮写真と、歩きながら撮影した写真を基にして生成されたデータである。空撮写真からの点群データは、建物の屋根が欠落せずに点群として表示されるため、防災マップを俯瞰した場合に、建物を認識しやすくなる利点がある。徒歩による場合には、空撮では視野が遮られてしまうような建物裏や窪地などを点群データ化することができる。

3 次元点群データを基盤とする防災マップであるため、(1) 現実を極めて忠実に表現しており、防災の観点から、避難路の高低や建物との位置関係などが、容易に把握できる、(2) 利用者が自由な視点から必要な角度で避難経路を確認できる、(3) クラウドサービスにより、利用者が好きな場所で好きな時間に避難経路を確認できる、(4) 3 次元 CAD データを点群データに重ねあわせて表示することで、避難経路上の安全性（危険性）を具体的に把握することができる。



図 愛知工業大学八草キャンパスの 3 次元点群データ

官民連携の情報共有プラットフォームによる職員参集システム

GIS大縮尺空間データ
官民共有化推進協議会

キーワード

防災、G空間プラットフォーム、オープンソース、地理院地図、産官学連携

【概要】

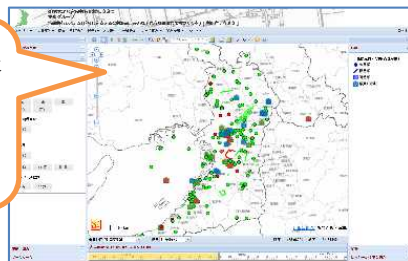
本システムは、災害発生など非常時に、初期対応を担当する土木事務所や調査・設計・測量関係の民間団体などの、被害情報の把握や復旧作業への迅速な対応の支援をするものです。

災害発生時、携帯・スマホ・PCなど手元の通信手段によるメールにより、参集すべき職員の安否と参集状況確認と同時に参集途中の被害状況・交通情報の写真を添付することで、情報共有と同時に初期の被害情報の把握や迅速な対応準備を可能にすることをめざしています。

フェスタの展示ブースでは、地理院地図・基盤地図情報を利用した関連する業務システムと併せて本「職員参集確認システム」を紹介し、オープンソースを使用した情報共有プラットフォームについての今後の活用について提案・意見交換を行いたい。

職員参集システム + 災害時の情報共有システム の 画面概要

- ◇投稿写真とPCからの被害情報登録を同時に表示
- ◇対応機関・未処理情報を色分け、対応状況を一目で確認

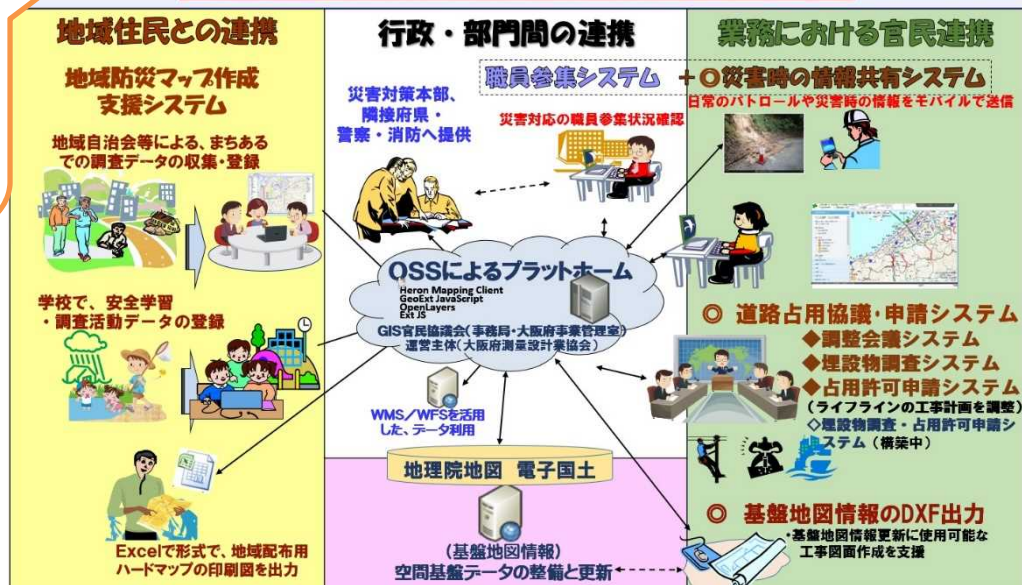


- ◇参集状況と途上の投稿履歴を確認

- ◇日常の各種業務で使用する共通プラットフォームにより操作感が統一、
- ◇日常から官官・官民が連携した業務で使用しているため、非常時の運用移行がスムーズに！

官民協議会の活動で蓄積された各種コンテンツ(システム)を集約

官民協議会のプラットフォームの概要と運用構想



ご近所防災マップ

Code for SAITAMA

古田武士

キーワード

自治会と作る防災マップで自助・共助の情報共有



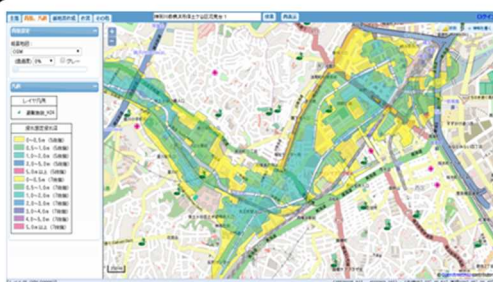
共助をするための情報共有に

要援護者や障害者など発災時に助けが必要な人の情報を記載することで、助けあいマップを作成することが出来ます。個人情報を含むセンシティブな情報はサーバーに保存せず、閲覧端末だけに限定できるので、自治会長など管理者端末だけの情報に限定できます。



紙地図の出力に

地理院地図やOpenStreet Mapなどの地図を用紙を分割して大型地図を印字することができます。DIGや避難訓練などで必要な地図を作成できます。また、作図機能や主題図機能を使うことで、必要な情報を地図上に表示することでわかりやすい地図が作成することが出来ます。



ハザードマップの作成に

国土数値情報など、オープンデータのハザード情報や地域の災害リスクになりうる情報を予め登録することで、災害時にどのようなリスクが周りにあるのかがわかりやすくなります。発災時の避難計画や訓練でのシナリオ作りに役立てることが出来ます。

空き家管理調査システム ふるさぽマップ

NPO法人ふるさと福井サポートセンター

理事長 北山 大志郎

キーワード

空き家調査 空き家利活用 まちづくり 行政との協働 人口減少問題

【空き家調査管理システム ふるさぽマップ】

NPO 法人ふるさと福井サポートセンターが2015年6月より、全国自治体向けに空き家調査管理システム「ふるさぽマップ」のサービスをはじめました。

平成27年5月26日、空き家特措法（空家等対策の推進に関する特別措置法）が本格的施行されました。それに伴い、市町村は空き家対策計画を策定することができるようになります。空き家の状態を調査しなければならないのですが、その調査結果をデータベース化する必要がでてきます。データベースには、調査、管理等の業務が発生します。「空き家管理調査システムふるさぽマップ」は調査を、iPadに搭載されたシステムで行います。地図、データ入力、写真撮影等の機能を備えています。また、調査データはパソコンに搭載されたデータベースシステムで一元管理します。

一方で、調査は、外部調査会社で行うことが多いでしょう。NPO 法人ふるさと福井サポートセンターでは、地元のまちづくり団体に調査できる教育プログラムも用意しているため、協働のまちづくりを推進している市町村にとっては、効果的な協働の企画とも言えるでしょう。調査はまちづくり団体、管理は行政と分業化も可能です。

あわせて、空き家調査は特定空き家の選定だけではなく、特定空き家の予備群をどう適正管理していくか、もしくは利活用につなげるかがこれからの空き家対策と言えます。そういう意味でも年々増えていく空き家調査は、随時最新に近い状態の作業が必要とされるでしょう。

NPO 法人ふるさと福井サポートセンターは、空き家の調査から管理までをトータルサービスとして業務委託が可能です。

今回のプレゼンテーションでは、利用対象者である行政職員の立場から業務改善のお話をいたします。調査に始まり、空き家対策として大きなテーマである空き家流・通利活用の展開を時系列にお話いたします。空き家に関する行政業務は年々、行政職員だけでは対応できないくらいのものにふくらんでおり、人口減少と合い重なりスピードも要求されています。

このシステムは、行政と住民の協働活動のアイテムとして活躍するサービスです。

スマートグラスを用いた現地調査入力システム

株式会社デバイスワークス

加賀屋太郎

キーワード

ウェアラブル、GPS、現地調査、情報入力、スマートグラス

現地調査において、紙の地図及び台帳を印刷し、調査結果を記入していた時代から、現在はスマホ、タブレットにおける各種調査のシステムに進化しつつあります。

しかし実際には、タブレット等により現地で多数の物件調査を行ってみると、現地の状況を目視で確認し、首を下にしてタブレットの入力を行うと、頭を動かす動作が多くなり、かなりの疲労感に見舞われます。

そこで、タブレットの画面をスマートグラスに置換えることで、入力時の目線の動きを最小にして、もっと楽に入力ができるようになるデバイスとシステムを提案します。

本システムは、位置情報はもちろん、音声認識やジャイロセンサーによる入力支援が行えるので、両手も空き、前を見ながら安全に普通の歩行調査が可能になり、もっとも普段の動きに近いデジタル入力ができる装置となっています。

【システム概要】

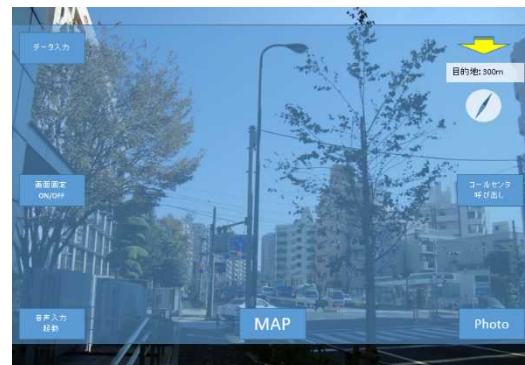


音声入力

ジャイロセンサー

GPS・方位

AR 機能



《想定している活用シーン》

① 現地調査におけるスマートグラスシステム

標識調査、街路灯調査、樹木調査、などのフィールド業務に加え、建設現場などにおいて、現地における情報入力をスマートグラスの画面を見ながら手を使わずに作業することが可能です。



② 地下埋設物等の AR 表示機能

位置情報ごとに平面図のデータベースから図面を取り出して表示し、ジャイロセンサーを方位に合わせ AR 的に画像を動作させて地下埋設物など現場では見えない情報を視覚化することができます。



CanSat Mapping で拓く宇宙工学の未来

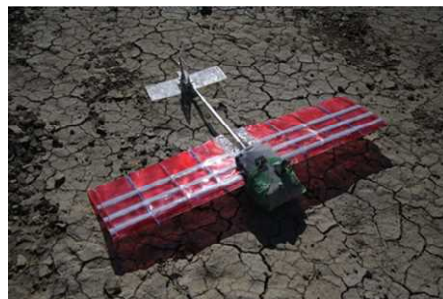
CanSat Mapping 製作委員会
(大学宇宙工学コンソーシアム、
首都大学東京 渡邉英徳研究室)
代表：平澤 遼

キーワード

宇宙工学，模擬小型人工衛星（CanSat），情報共有ツール，GNSS 移動軌跡

CanSat とは？

模擬小型人工衛星（CanSat）とは空き缶サイズの人工衛星のことであり、本物の人工衛星の開発に向けた教育プログラムとして、世界的に普及している。多くの CanSat 競技は気球もしくはロケットにより数百～数千メートル上空まで運び、上空で投下後、パラシュートや翼型の減速機構を用いて降下するのが一般的である。CanSat 競技大会には、能代宇宙イベント（8 月）や国際大会 ARLISS（9 月）がある。



CanSat Mapping

3D 地球マップ上に世界中の CanSat 開発チームの情報を付与することで、開発拠点と CanSat のミッション、設計コンセプトなどをひとつのプラットフォームに統合している。さらに、地図上の CanSat 競技開催地には競技を行った CanSat の GNSS 移動軌跡が表示されており、特に上空での CanSat に関する情報を世界規模で共有することができる。



宇宙工学の未来に向けて

人工衛星には必ず GNSS 機器が搭載されており、模擬人工衛星（CanSat）も同様である。しかし、それらの情報を世界規模で共有するという試みはなかった。しかし、今後の宇宙開発の発展に国際協力は欠かせない。CanSat Mapping は人工衛星に当たり前に搭載されている GNSS 機器やその他のセンサの情報を、3D 地球マップ上で国際的に共有し、視覚的に分かりやすくした。これにより、技術の共有に加えて、新しい知見の創出を促したい。

空間浮遊散歩 地球空間、宇宙空間の未来へ

G 空間未来プロジェクト[公園へ行こう]チーム

竹内久知、両角佳代子、齋藤浩一

キーワード

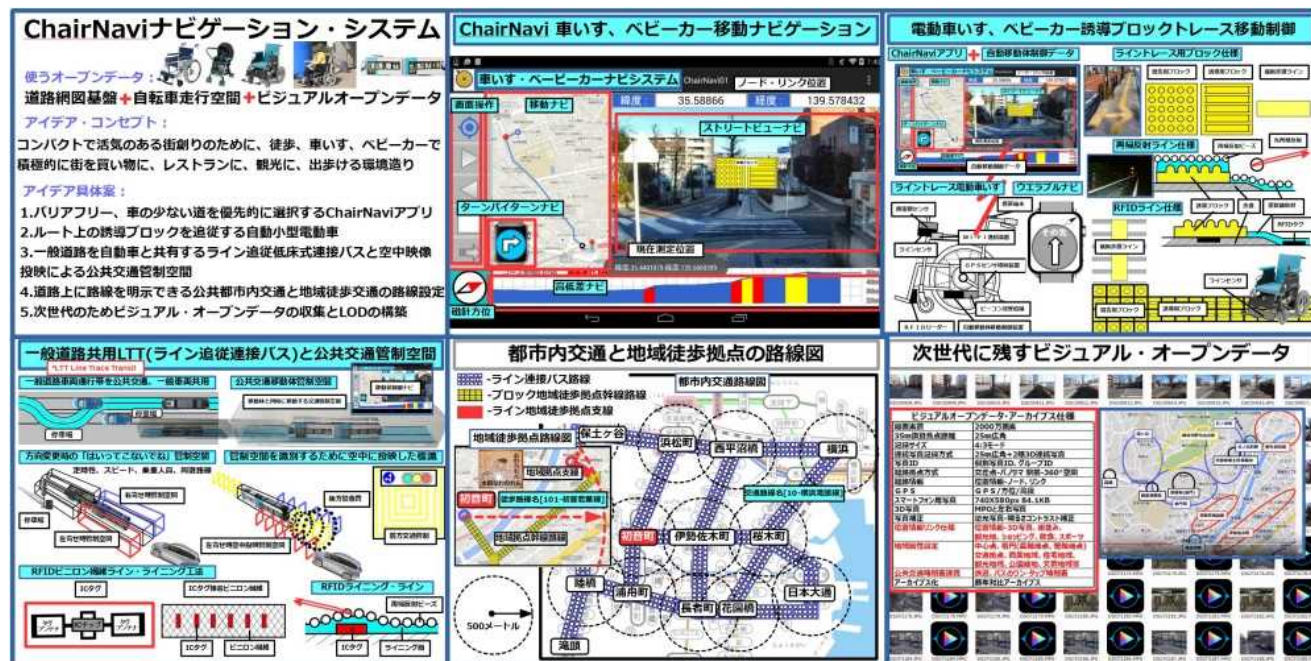
4面投映、3D サウンド、バリアフリー道路、未来都市交通、
ビジュアル・オープンデータ

国土交通省が 2014 年 11 月より策定している「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方」にある、まちの活力と個性を支える都市公園の運営と活用を目指し、「公園へ行こう」チームは進化しつつある地域連合公園、公園の集会場、町内会の自治会館、街内拠点、企業を拠点としたイベント等での、近年の質の高い映像、音響のビジュアル・オープンデータの、新たな刺激で革新的な、多くの人に興味を持ってもらえ、市民、社会に役立たせることのできる見せ方に取り組んでいます。

前面・床面・左右側面の4方向の壁面全てに映像が投影されます。人の視界全てが映像となるため、まるで映像の中に“没入”したかのような感覚に囚われます。宇宙空間・空中等の映像では浮遊しているような感覚となり、時空を超える演出等では、通常のアミューズメント施設でも成し得ないほどの“迫力ある映像”と左右2つのスピーカーだけの一般的なステレオ機器で、音を前後左右自在に飛び回せる迫力ある3D立体音響を体感することができます。公園が人と人を繋ぐ人的ネットワークの拠点となります。



徒歩、車いす、ベビーカーで市民誰でもが積極的に公園、買い物、レストラン、観光、仕事に外出できる街造り、交通権確立をめざした、バリアフリー、車の少ない道を優先的に選択する [ChairNavi アプリ](#)、ルート上の誘導ブロックを追従する自動小型電動車、一般道路を自動車と共有するライン追従低床式連接バスと空中映像投映による公共交通管制空間、道路上に明示できる公共都市内交通と地域徒歩交通の路線設計による都市再設計、次世代に残す LOD ビジュアル・オープンデータの標準化に取り組んでいます。



立体模型で見るヒートアイランド東京 -五輪に向けて涼しい場所、緩和すべき場所を調べよう-

スカイマップ(株) 三田友規、井上覚

E-mail: skm@skymap.co.jp Twitter: @tmnr0202



キーワード

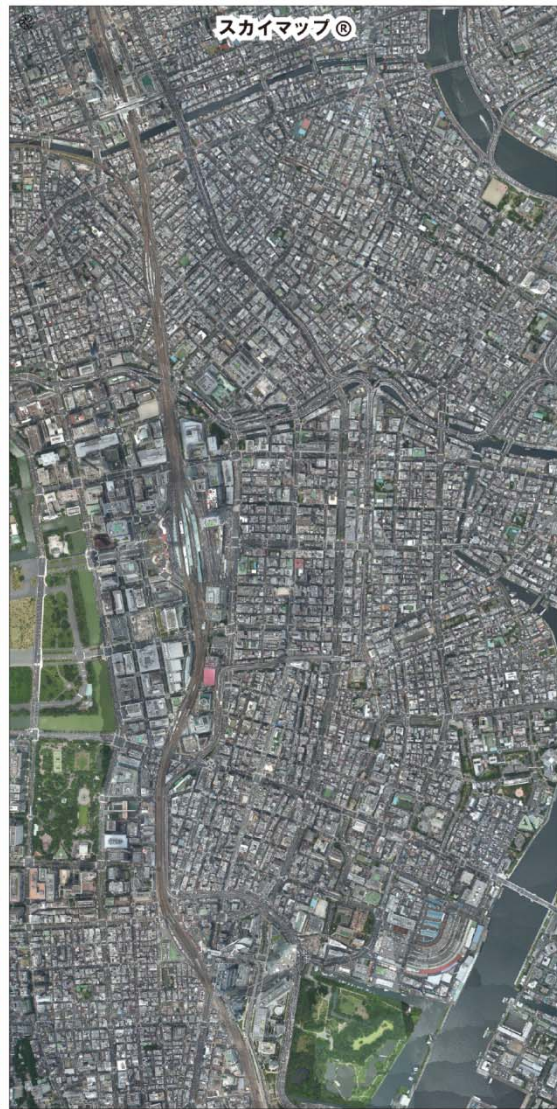
ヒートアイランド、東京五輪、サーモマップ®、立体模型、ヘリコプター



この100年で気温が約3度上昇した熱帯都市、東京（H23年国土交通白書）。そんな東京で五輪が開催される。選手が最高のパフォーマンスを出すために、ヒートアイランド問題は、緩和されるべきである。

スカイマップ（株）では、2009年以降ほぼ毎都市、都内の航空サーモセンシングを自前で実施している。昼間のみならず、夜間のセンシングも行っていることが特筆すべきことだと自負している。

今回、GISでの表示や立体模型を使用して、涼しい場所、緩和すべき場所、各種因果関係などを紹介する。



公園等の緑地・緑化された屋上・並木道などは温度が低いのに比べ、交差点・道路・広い裸地は真っ赤です!! 2007年8月7日13:00撮影 スカイマップ株式会社

G-Map で対空標識が不要になる写真計測

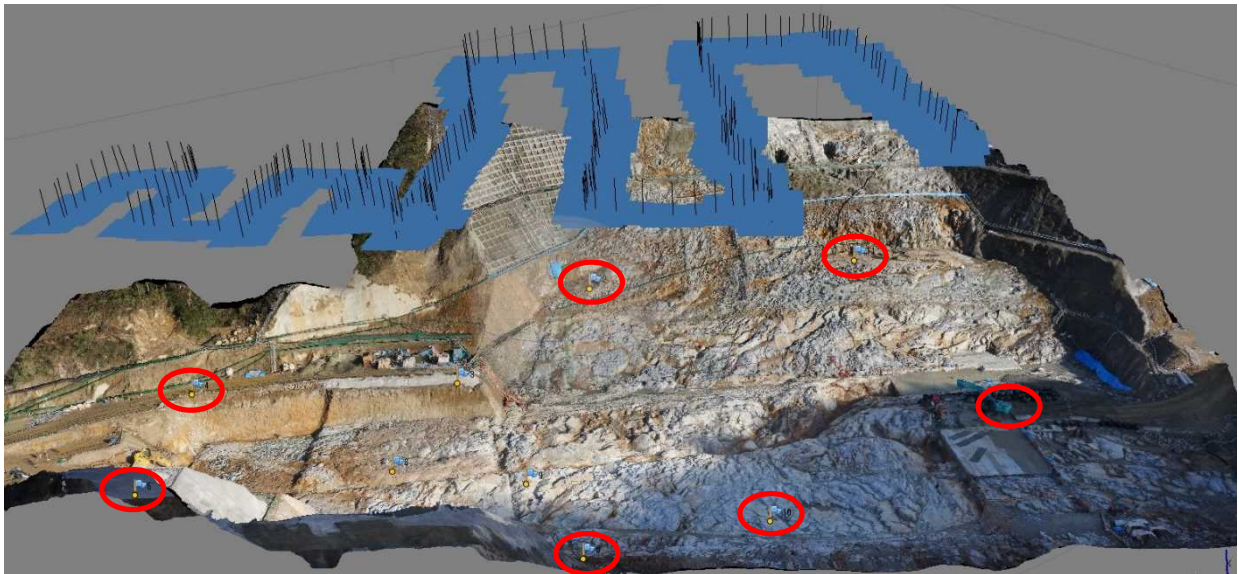
株式会社快適空間 F C
岡田 信一

キーワード

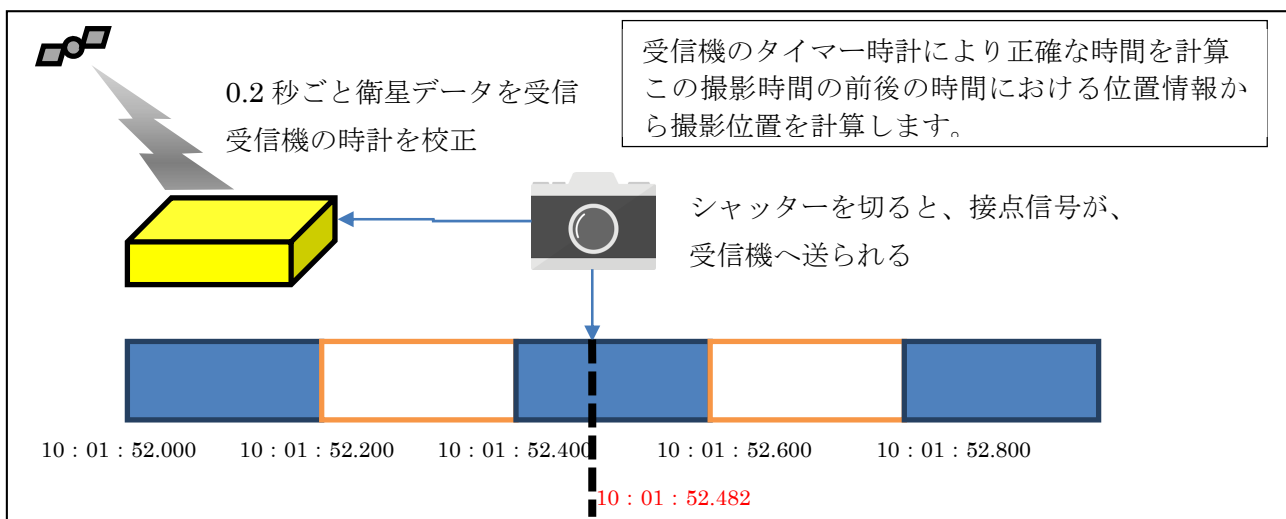
1 周波受信機、カメラ位置、シャッター時間のログ
RTK-POST、画像による点群抽出、

G-Map は、対象エリアに於いて事前に対空標識を入れる工程を削減しました。

通常、UAV による写真計測は計測区域の中に 3 点以上の対空標識を事前に設置し、撮影した画像を 3D ソフトで画像処理します。その後、事前に対空標識の値を算入することで 3D データを世界測地系にデータに変換する方法が一般的でした。しかし、事前に対空標識を測定する作業が工程的にも費用的にも大きく難問でした。(下記；ダム堤体の掘削計測＝対空標識 GPS で計測)



撮影位置の計算 G-Map GNSS 受信機はカメラがシャッターを切った瞬間の時刻を記録しています。G-Map GNSS は 0.2 秒間隔で衛星データを受信し、受信機の時計を校正しています。カメラがシャッターを切ると接点信号が受信機へ送られ、衛星時刻と受信機のタイマーの補間計算により撮影時刻を 1/1000 秒で受信機に記録することができます。



写真処理；UAV で撮影された撮影画像を読み込み、GNSS 解析された飛行構成データから撮影位置を計算します。写真解析で精度を確保するために最適な撮影間隔の撮影画像を抽出し、S f M解析ソフトに必要な位置情報ファイルを生成します。

本システムは、G-Map GNSS 受信機を搭載した UAV で飛行し計測されたデータから、GNSS キネマティック解析を行い、画像処理後の撮影位置データが世界測地系のデータを算出するシステムです。

地すべり現場での情報化施工のためのドローンによる地形測量

(株)アモーガイメージング

(代表 花嶋正昭)

キーワード

ドローン測量、土砂災害防止法、情報化施工、起工測量、防災

地形形状計測ソフトウェア (ImageMatch3D) は、自然地形の特徴点と対応点を画像から自動で取得し地形形状を距離 100 メートルで±2 mmの高精度で再現できるソフトウェアです。昨年の展示では、たくさんのお客様にお声をかけていただき、中でも、ドローンを用いた土砂災害防止のための地すべりや土砂崩れ現場での安全な地形測量に関心を持っていただきました。現状では、地すべり対策を行う際、現場を踏査して測量する危険な作業を行っており、残念ながら、浜松市天竜区原田橋では、監視中の事故もありました。現時点では、研究段階ですが、ImageMatch3D を用いることで、これを遠隔から安全安心に測量したいという深刻なニーズを満たすことが出来ます。

実際、地すべりや土砂崩れ対策のシミュレーション等を専門にしているコンサルタント（株式会社村尾地研様（富山県））が、安全安心に測量し、シミュレーションを行う用途に使用していただき、さらに、土砂崩れ対策の工事を行う地場ゼネコン（中村建設様（浜松市））が、実際の土砂崩れ現場（原田橋付近）で、建機ロボットを用いた情報化施工のための起工測量用途で使っていただけることになりました。他にも、海岸線の計測など実績が出来つつあります。

今回は、プレゼンテーションでは、土砂崩れ現場の測量応用事例を中心に報告させていただきたいと思います。去年より進化したところは、

- ・ドローンで移動しながら撮影した連続画像に対応するため複数画像からの SfM (ストラクチャー-from-Motion) による三次元計算をソフトウェア実装しました。SfM とは、カメラの視点を変えながら撮影した画像群において、同一と判別できる多数の点をトラッキングすることで、その3次元幾何 (Structure) とカメラ姿勢変化 (Motion) を算出する技術です。図1に連続する画像のカメラ位置の計算事例を示します。点の部分がカメラ位置です。

- ・計算されたカメラ位置の拘束条件からノイズである誤対応点を自動削除する機能をソフトウェア実装しました。

- ・土砂災害防止法に基づく監視業務や対策のための安全な測量の実例を示します。図2に、浜松市天竜区原田橋（国道473号線）の大規模崩落現場の画像を示します。

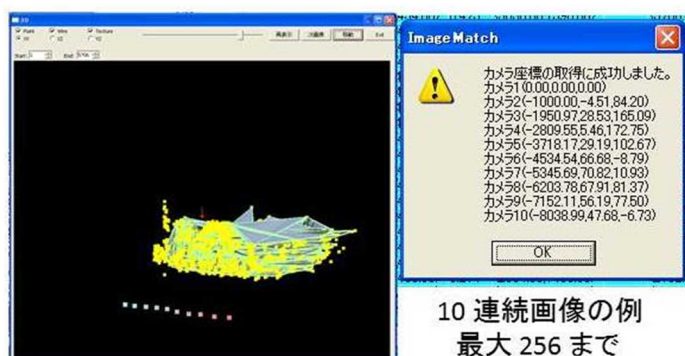


図1 連続する画像のカメラ位置の SfM 計算事例



図2 浜松市天竜区原田橋（国道473号線）

G 空間情報によるニュースポーツ 「G 空間トレイルランニング」

あおき地理情報
システム研究所

青木 和人

キーワード 地域創生，スポーツ振興，トレイルランニング，山間地域，健康増進

あおき地理情報システム研究所

ニュースポーツ

G空間でワクワク！

「G空間トレイルランニング」

G空間で安全なトレイルランニング創出！



健康増進

山間地域
活性化



ルートのG空間情報整備・オープンデータ公開

勾配情報、経過地点、危険箇所（衝突や転落、道迷いなど）休憩箇所、トイレ位置、観光箇所



「G空間トレイルランニング」アプリ



心拍数と走行距離、勾配情報分析による体調管理

位置座標に基づき、経過地点等の情報提供と到着タイムの自動記録

初めてのコースでも安心！
バーチャル・トレイルランニングで事故防止



現実



バーチャル



危険箇所・体調不良者へのアラート

衝突事故危険
エリアの通知



体調予測による通知



空間にかかわるコンテンツを協創できる疑似
空間動画作成 Web サービス MeLocationN

首都大学東京大学院 観光科学域
MeLocationN プロジェクト (代表: 池田 拓生)

キーワード 協創, Web サービス, 疑似動画, CGM

空間にかかわるコンテンツ(旅行体験やその場所の空間的特徴を基にした創作物)を作成し、共有・協創*することは、カメラやスマートフォンといった道具が出現した現代においても、未だ難しいことであると考えられる。なぜならば、空間にかかわるコンテンツを創作するには、多くの場合「行動」「記録」「編集」が必要となり、これらすべてを一人で行えなければ、コンテンツが作成されることはないためである。そこで我々は、「編集」を協創によって分業化することで、空間にかかわるコンテンツの作成難易度を下げ、また「行動」や「記録」は自分では行っていない視聴者も協創に参加できるWebサービスMeLocationN(<http://melocation.com/>)を開発した。このサービスを利用することで、専門的な編集技術を持たずとも空間にかかわる疑似動画の作成や協創への参加が可能となる。

主要機能

A 疑似動画の投稿

地図に写真と音楽を組み合わせて、テーマを持った疑似動画を投稿できる。音楽は自分でMP3データを投稿する方法とYouTube動画を引用する方法を実装し、これによって投稿難易度の低下を狙っている。

B 写真の追加

視聴者が写真を追加することで、疑似動画に表示される写真が追加されていく。多くの参加者の参入によってコンテンツの協創を狙う。

C カウントタグ機能

疑似動画のサブテーマやサブジャンルを評価するアノテーションとして機能することを狙う。写真毎のカウントタグをクリックすることで各写真がサブテーマにあっていくかを視聴者が評価できる。

D カウントタグによる再生順変更

カウントタグによる評価によって写真の再生順を変更できる。投稿者、写真追加者、視聴者の協創の結果としてテーマに沿った疑似動画が構築され、再生することが可能となる。



本サービスは、Web上のコンテンツの創発的な協創によって実際の空間の魅力を盛り上げていくことを狙ったWebサービスであり、写真だけでなくイラストなども投稿され、多方向に創作が展開していくことが望ましい。今後は、そのような協創を可能とする構造設計をさらに進めていくとともに、スマートフォンやタッチパネルといった携帯端末への対応もしていく予定である。

* 個人や企業が通信技術を活用し、階層構造と支配ではない、自発的秩序形成を通じて共有する成果を得る開発手法(D. Tapscottら2006)

じじばばウォッチ

チームじじばばウォッチ（代表：菊地 映輝）

キーワード

多世代交流、子どもの見守り、健康増進、ゲーミフィケーション

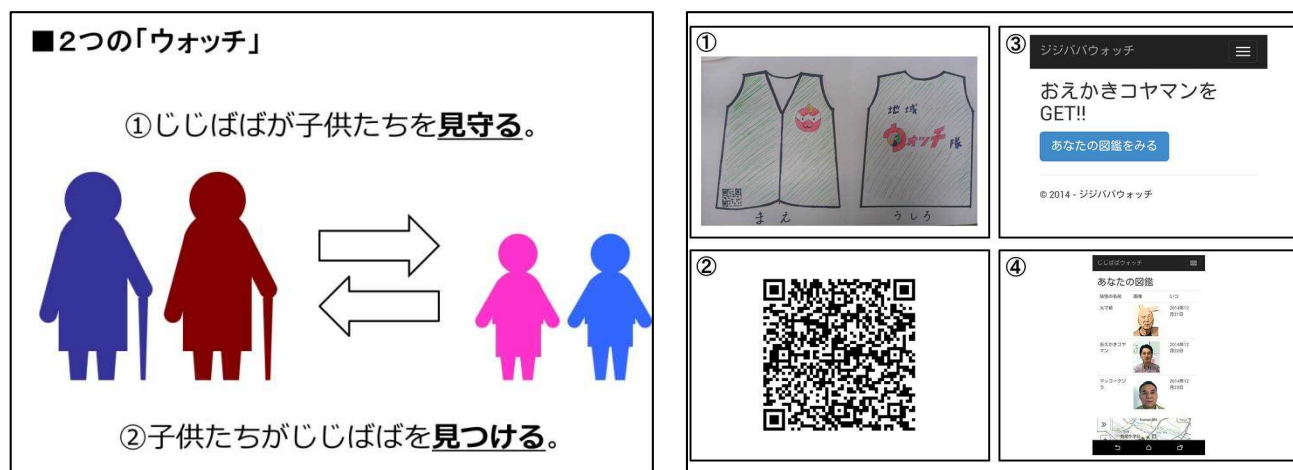
■じじばばウォッチとは

「じじばばウォッチ」は、2014年の秋から冬にかけて開催された国土交通省主催「地理空間情報に関するアプリケーション・サービス普及促進業務：G空間未来デザイン」内で開催されたアイディアソンをきっかけに誕生したアイディアです。このアイディアは、地理空間情報を利用したスマートフォン用ゲームアプリを活用し、次の目標を実現することを目指しています。

- 子どもたちが高齢者とコミュニケーションをはかるようになり、地域内での多世代交流が創出される。
- 高齢者による地域の見守りパトロール活動を盛んにし、地域の防犯強化を行い、子どもたちを危険から守る。
- 高齢者の外出が増えることで、高齢者の日常活動量増加・健康な高齢者を増やす。

■ゲームアプリ・コンセプト

地域に住む高齢者たちに子どもたちの見守りパトロール活動を行ってもらいます。その際、高齢者たちには「妖怪」の役割を演じてもらい、その妖怪を子どもたちがスマートフォン用ゲームアプリを使用して発見していきます。ここから「じじばばウォッチ」の「ウォッチ」には2つの意味が込められています。第一に、見守りパトロール活動を通じて、高齢者たちが子どもたちを「見守る」ということ。第二に、子どもたちが高齢者たちを「見つける」というものです。



(左) じじばば「ウォッチ」に込められた2つの意味、(右) ゲームアプリ・イメージ

上記のコンセプトにもとづき、現在ゲームアプリの制作を進めております。私たちの取り組みにご賛同いただける企業・自治体・団体の方を探しております。

だれでもガイド！

首都大学東京 倉田研究室

キーワード

バーチャルツアー、ストリートビュー、利用者参加

「だれでもガイド！」は、Web上で各地の「バーチャルツアー」を鑑賞でき、さらにツアーの作成・発信までも簡単にできるツールです



自宅から世界中へ仮想旅行にでかけましょう！
あなたがツアーを作ること可能です



ガイドさんが世界中どこでも案内します！

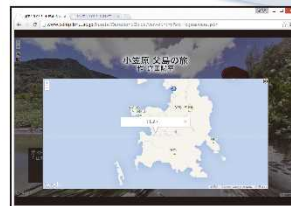


あたりの景色を眺め回す
こともできます



背景・キャラ・効果音をドラッグ＆ドロップ！
まるでスライドショーを作るような感覚で
簡単にバーチャルツアーが作成できます

作成したツアーは
すぐテストできます



位置情報つきなので、
現在地や旅の軌跡を
地図上で確認できます。



選択肢が表示されることも。
アドベンチャーゲーム風の
演出も可能です。

このように「だれでもガイド！」ではGoogleストリートビュー上にガイド役のキャラクターや効果音を重ね、いきいきとした「仮想旅行」を実現させることができます！

だれでも発信できるからこそ、さまざまな応用が考えられます！



観光情報発信
(外国語も可能)



商店街の
店舗紹介



施設や駐車場への
経路案内



まちづくりワーク
ショップでの利用



小中学校での
地域教育



思い入れのある地域の情報を誰かに伝えたいが、
どうしてよいかわからない——そんな人たちに
この「だれでもガイド！」が力となり、彼らの
知恵と活力が引き出されることが期待できます

ぜひあなたも
体験を！



<http://www.comp.tmu.ac.jp/kurata/DaredemoGuide/>

位置情報 + 時間 = 思い出 ゲーム感覚の地域文化アーカイブプラットフォーム

株式会社トリトメ

代表 西部 一英

キーワード

位置情報、オープンデータ、地域文化、アーカイブ、スマホアプリ

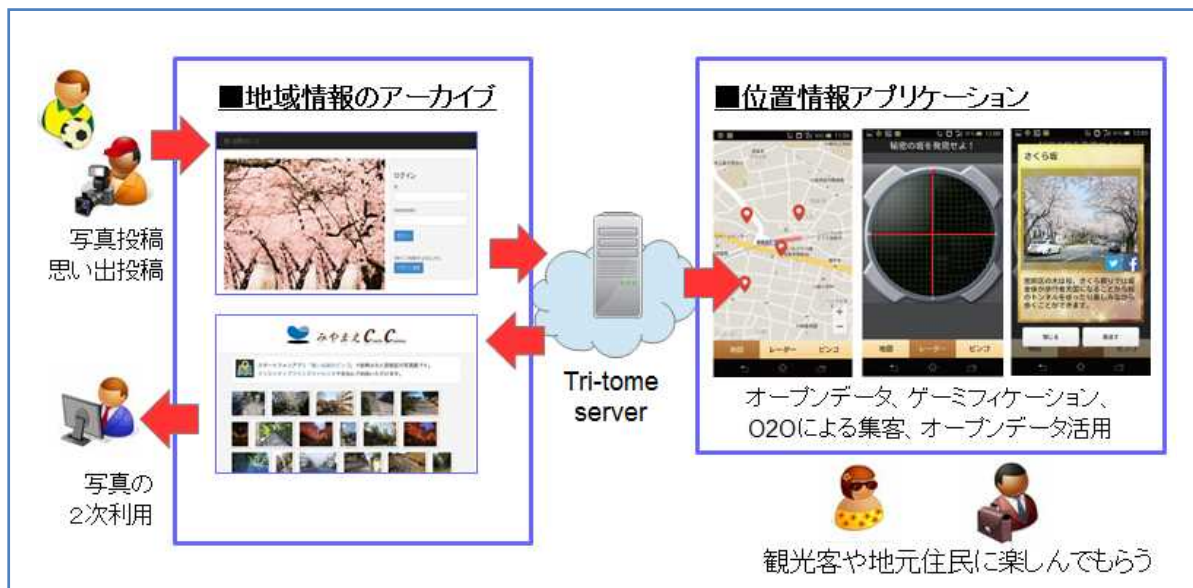
課題と目的

現代社会は、ご近所のつながりがうすく、地域への帰属意識も希薄化しています。

これら課題を地域で解決するためには、地域の文化や体験を位置情報とともに記録できるアーカイブシステムと、その情報を楽しみながら共有できるアプリケーションを統合したプラットフォームが必要であり、そのプラットフォームによって、地域住民による情報共有が重要だと考えます。

ゲーム感覚の地域文化アーカイブプラットフォーム

地域の方が写真とその場所の思い出(エピソード)を位置情報と共に専用 Web サイトから登録します。写真は昔のものでも構いません。この登録された写真と思い出(エピソード)と位置情報が連動するスマホ用のゲームアプリにより、日常生活の街でビンゴゲームが楽しめます。さらに、この技術を用いて地元商店街への誘客など O2O の仕組みも提供できます。



効果

地域の文化、体験、記録を楽しみながら住民間で共有できるようになり、親子など世代間で郷土史などが継承されていきます。これにより、地域を愛する心が育まれ、地域活動の参加推進につながります。

